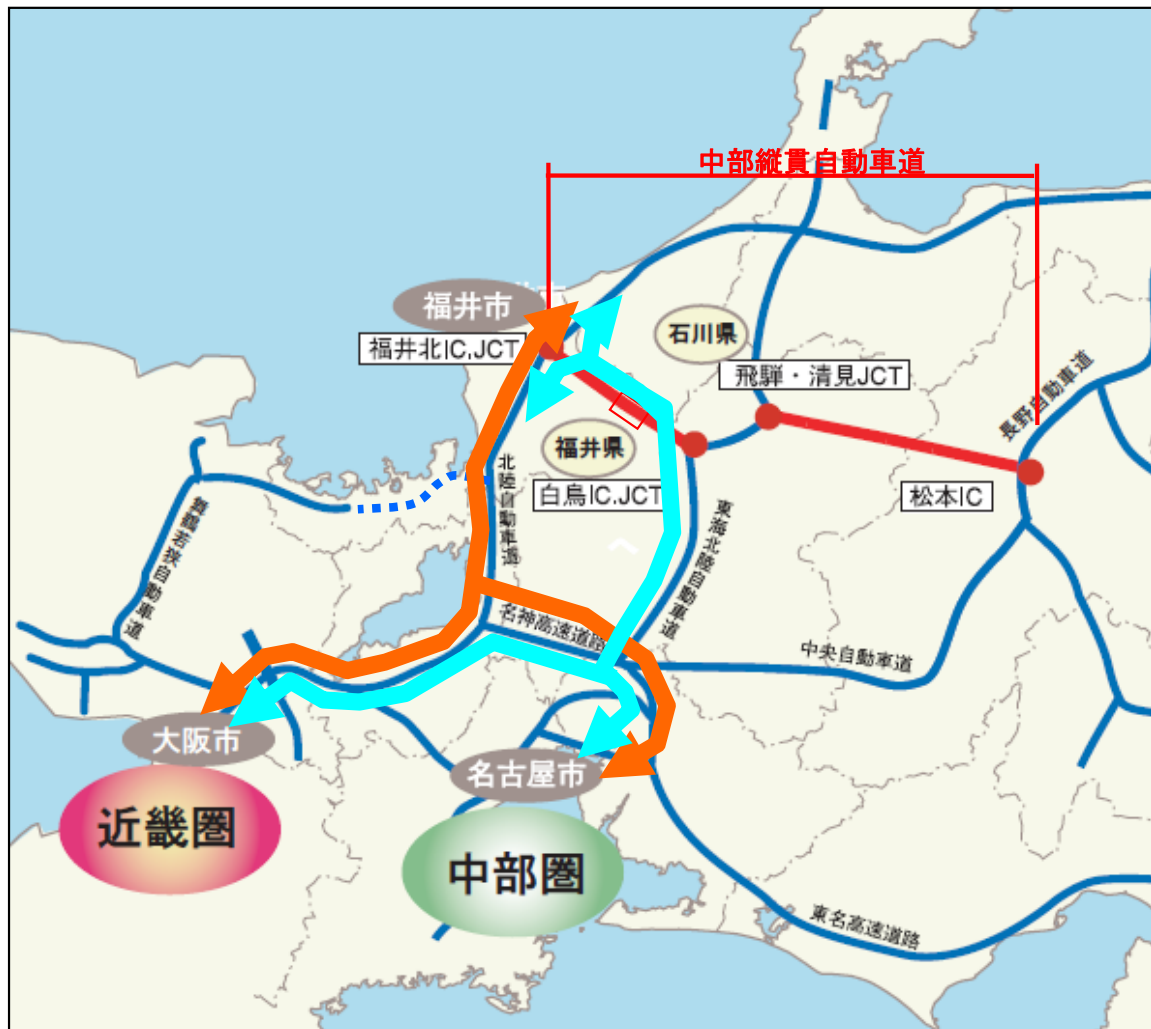


中部縦貫自動車道の整備効果

広域リダンダンシーの確保

- ・中部縦貫自動車道の整備により、北陸自動車道が大雪などの災害で不通となった場合に、近畿圏・中部圏への代替路(リダンダンシー)となります。
- ・中部縦貫自動車道の整備により、関東圏、中部圏、近畿圏において、大規模地震が発生した場合、東西西日本を結ぶネットワークを提供することが可能です。

【北陸自動車道が通行不通となった場合のリダンダンシールート】



- 凡例
- ↔ (orange): 福井県から中部圏、近畿圏に向かう、現況の主なルート
 - ↔ (cyan): 中部縦貫自動車道の整備により、代替路(リダンダンシー)となるルート

【東名高速道路が通行不通となった場合のリダンダンシールート】



- 凡例
- ↔ (green): 関東圏と近畿圏を結ぶ主要幹線ルート
 - (pink): 東海地震での震度6弱以上の震度分布に含まれる区間
 - (blue): 中部圏直下型地震での震度6弱以上の震度分布に含まれる区間
 - (green): 近畿圏直下型地震での震度6弱以上の震度分布に含まれる区間
 - ×××× (red): 東海地震、中部圏・近畿圏直下型地震での震度6強以上の震度分布に含まれる区間
 - ↔ (yellow): 中部縦貫自動車道の整備により、リダンダンシーとなるルート

- 凡例(想定震度分布)
- (red): 震度7
 - (orange): 震度6強
 - (yellow): 震度6弱

※内閣府発表「東海地震に関わる被害想定結果について」(H15.3.18)によれば、本地震によるライフラインの被害として「東西幹線交通である東海道新幹線や東名高速道路が一定期間利用困難となる場合も考えられる。」とされている。

出典：中央防災会議資料
 ※想定震度分布図
 東海地震：
 震度6弱以上の震度分布範囲(中央防災会議資料 H15.3.18)
 中部圏・近畿圏直下型地震：
 震度6弱以上の震度分布範囲(中央防災会議資料 H21.4.21)(中部圏：猿投-高浜断層帯、近畿圏：上町断層帯での直下型地震を想定)